

## 事業活動報告 事業所名 地域活動支援センター絆

1. 2017年度 事業所方針
<p>① 亀岡在住の主に知的障害や障害のある人たちがこの地域の主人公として、いっそう心豊かに、主体的に暮らしていけるよう、生きる力を強める支援をします。</p> <p>② 利用者のニーズを探り、一人一人ほっとできる場、落ち着ける場の模索をします。</p> <p>③ センターの職員間で報告・連絡・相談します。</p>
2. 利用者・職員状況について
<p>○利用実績</p> <p>登録人数 34名 年間のべ利用人数 549名 職員 正規1名、非正規1名</p> <p>開所日 火・木・金・土・日</p>
3. 2017年度の実践内容について
<p>&lt;実践内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後半期から、毎月利用者に配る一ヵ月の予定表に昼食取り組みのメニューを具体的に示すようにした。自閉傾向の利用者さんがいらっしゃるので、安心して取り組みに参加できるようになった。→しかし、野菜の値段が高騰しなかなか同じものを作ることが難しい日もあります。安売りの日にまとめ買いするなど工夫していく。</li> <li>・昼食作りのニーズが高く、参加希望者が多い。参加者の中には、自分も障害を持ちながらも一生懸命子育てをされる主婦の方もおられる。料理経験を積むだけではなく、金銭管理・掃除の仕方など、その都度相談をお聞きすることも多い。母親の笑顔は家族の笑顔にも繋がるので、“頑張るママの応援団”として支援していきたい。→参加者が多い場合、調理の段取りの関係で、作業工程が細分化し、自分が何の工程をしているのか分かりにくい。利用者ニーズに合わせ、その都度調理の工夫をしていきたい。</li> <li>・自主通所ということもあり、自分のタイミングで通所しやすい。→冬場や天気の悪い日や、昼食取り組みをしない日は利用者の来所数が少ない。天候での通所の難しさだけではなく、紹介されるケースの中には、一人で公共交通機関の利用が難しい方がおられる。福祉制度を使用し、サロンの活動参加ができないので、家族の協力やタクシーに乗っての通所になるので、家族や金銭面の負担が大きい。</li> <li>・好評だったのが、出前の注文やバーベキューなどの一人暮らしではしにくい体験ができたこと。特に利用者みんなでピザを注文し食べる経験は初めての方がとても多く、職員にとっても驚きであった。私たちには当たり前の経験が、利用者（障害の種類問わず）の多くが、経験されていないことが多くある。社会資源の活用の仕方について、情報提供していればと考える。</li> </ul>
4. 2018年度への課題について
<p>利用者にとってわかりやすく魅力あるプログラム作り（ワンパターンにならないように）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちでコツコツできる自主製品づくり／・亀岡市街への外出取り組み</li> <li>・地域資源の活用／・サロン利用者にとって過ごしやすい空間づくり</li> <li>・職員間の役割分担（ケース記録、予定表づくり、新しい活動取り組みの検討など）</li> <li>・新規利用者開拓・事業所紹介パンフレットづくり</li> <li>・お結びや地域の相談支援事業所との連携</li> </ul>